

郡地方裁判所で弁護士なしで裁判をするために

本人訴訟をお考えの方へ

法的手続きを理解し、それを実行することは容易ではなく、かなり戸惑うこともあるかもしれません。特に弁護士なしで自ら裁判を進める際は、ストレスを感じることもあるでしょう。州裁判所や地方裁判所には膨大な規則があり、郡地方裁判所に出廷する人々は皆、そういった規則に従うことが求められます。以下の内容は、弁護士なしで裁判を進める際に生じる疑問点を解決する一助となるでしょう。

郡地方裁判所での通常手続き

少額訴訟：少額訴訟とは、回収したい金額が 5000 ドル以下の訴訟です。他人に対して少額訴訟を起こす場合、あなたは原告となります。少額訴訟に関する情報（訴訟費用など）が記載された案内書や、少額訴訟を起こすための訴状記入用紙は、お住まいの地域の郡地方裁判所の民事部で手に入ります。管轄の裁判所の指示に従うことが重要です。郡地方裁判所によっては、少額訴訟裁判所に関する情報を紙媒体で提供していたり、オンラインで提供していたりすることもあります。少額訴訟の召喚状に対して**指定期間内に返答することを怠った場合は**、請求額の支払いに加え、申立手数料と書類送達料の支払いも裁判官から命じられることがあります。裁判所によっては、公判日を決定する前に双方の調停を義務付けているところや、公判前に双方に出頭を求めるところもあります。少額訴訟の手続きは郡によって異なります。勝訴した原告は、裁判官が命じた支払い金額を被告から回収する責任があります。

改名：自分の名前を変更したい人、未成年の子どもの名前を変更したい人は、郡地方裁判所に改名許可を申し立てることができます。郡地方裁判所は改名手続き、申立手数料の金額、提出しなければならない書類などに関する情報を提供しています。郡地方裁判所へ申し立てる際は、必ず書面で、改名の理由を記載した申立書を提出する必要があります。裁判所は審理日程を決定し、審理で申立て内容を検討します。審理の結果、裁判所の裁量で改名許可が出されることがあります。不法目的または詐害目的の改名は許可されません。改名許可を求める人がドメスティックバイオレンスの被害者で、自らと未成年の子どもの安全について当然の不安を覚えており、改名許可申請の非開示を望む場合は、上級裁判所に改名許可を申し立てる必要があります。

保護命令、接近禁止命令：保護命令と接近禁止命令に関する手続きは郡によって異なります。お住まいの郡での手続きについては、管轄の上級裁判所、郡地方裁判所または市地方裁判所にお尋ねください。

違反：違反とは法律によって禁止されている行為ですが、法律上は犯罪と定義されてはいません。違反行為を行うと、裁判所から罰金を科せられます。違反行為は犯罪ではないため、裁判所は被告を拘留することはできません。違反行為で出廷命令を受けた当事者は弁護士に弁護を依頼することはできますが、公選弁護人をつけてもらうことはできません。

違反行為による出廷命令には、三つの返答方法があります。返答方法は出廷命令書の裏に印刷されています。出廷命令が下された日から 15 日以内に返答しないと、元々の罰金にさらに 52 ドルが強制追加されます。交通違反に対して指定期間内の返答を怠ると、ほとんどの場合、返答を怠ったことが運転免許証課 (Department of Licensing) に通知され、運転免許証の停止処分を受けることもあります。駐車違反や取り締まりカメラに記録された違反は、選択する審理の種類を問わず、運転経歴には残りません。違反審理を郵便や電子メールで行なうことができる裁判所もあります。

刑事起訴：刑事事件で起訴されたら、弁護士に弁護を依頼することが重要です。もしあなたが刑事事件で起訴され、懲役を科せられる可能性があり、罰金やその他の重大な影響を被る可能性もある場合は、出廷時には必ず弁護士を同行させる権利が認められています。あなたに弁護士を雇う金銭的余裕がなければ、裁判所が公費で弁護人をつけることもあります。刑事事件の弁護人はあなたの権利を守り、すべての審理であなたを弁護してくれると同時に、事件に関する選択肢の提案など、あなたに助言もしてくれます。

さらによく詳しい説明は裏面をご覧ください。

知っておくべき専門用語

1. **カレンダー[Calendar]**（**訴訟事件表[Docket]**ともいいます）：法廷で審理されることになっている訴訟事件の一覧表
2. **訴状[Complaint]**／**出廷命令書[Citation]**：刑事訴追や民事訴訟を開始するための文書
3. **一方当事者の[Ex parte]**：ラテン語の語句で、相手方に通知することなく、一方当事者だけのために、一方当事者だけが利するように、一方当事者だけの申請によって行われる法的措置のこと。
4. **調停[Mediation]**：相手方との円満な解決に向けた話し合いで、経験ある中立な第三者が立ち会う。
5. **申立て[Motion]**：一方当事者が裁判所に救済命令を求めて（通常は書面で）出す要請。裁判所に対する正式な書面による要請。
6. **命令[Order]**：裁判所が発する指示または命令で、裁判歴に残る。
7. **嘆願書[Petition]**：法律に従った何らかの救済を裁判所に要請するための正式な申立て文書。
8. **本人訴訟[Pro se]**：ラテン語の語句で「自分のために」という意味。（本人裁判をする人々を指す）
9. **召喚状[Summons]**：出廷義務があることを通知する書状

法廷での服装や態度はどうするべきか？

法廷は敬意を払うべき公式な場所です。法廷という場で争って勝訴に導くためには、法廷にふさわしい服装をすること、法廷にふさわしい話し方やふるまいをすることを心がけましょう。

1. 不要な注意を引かないよう、清潔で小綺麗な服装にします。
2. 帽子はかぶらず、ショートパンツ、へそ出しルックやタンクトップなどといった露出度の高い服装は避けましょう。
ただし、宗教的な服装は例外とされる場合があります。
3. 携帯電話やポケットベルの電源は切っておきます。
4. 礼儀正しく、はっきりとした口調で話しましょう。相手方ではなく、法廷に向かって発言しましょう。
5. 裁判官に向かって発言している人の話を遮ってはなりません。
6. ダラダラと長話をせず、要点を言いましょ。裁判官の判決に関連することだけについて発言しましょう。
7. ガムを噛んだり、大声を上げたり、暴言を吐いたり、不適切な言葉遣いをしてはなりません。
8. あなたが裁判官で、誰かが有利な判決を求めていると想像してみましょ。その人たちがどう振舞えば、あなたは別のことに気を取られず、事実を公平に評価できると思いますか？

役に立つ電話番号とウェブサイト

1. 法律情報：www.WashingtonLawHelp.org または www.lawforwa.org
2. 用紙のダウンロード：www.courts.wa.gov/forms
3. 州裁判所・郡地方裁判所の規則：www.courts.wa.gov/court-rules/
4. この地域の管轄裁判所のウェブサイト

裁判所職員は弁護士ではないので、法的な助言をすることは法律によって禁じられています。

裁判所職員は記入済み書類の不備の有無を確認することはできません。

ご自身の訴訟について裁判官と直接話すことができるのは、法廷に出廷している時に限ります。

AOC Public Trust & Confidence Committee